

研究実施のお知らせ

2025/3/10

研究課題名

重症大動脈弁狭窄症患者における術前 CT 検査による骨格筋指標の評価と運動機能の

関連性、術後の転帰についての後向き観察研究

概要

島根大学医学部附属病院では 2018 年 4 月より、高齢のため体力が低く、開胸による手術はリスクが高いため手術を行えない重症大動脈弁狭窄症（重症 AS）患者に対して、手術侵襲の少ない、カテーテルを使用して経皮的に大動脈弁を置換する TAVI（経カテーテル的大動脈弁植込み術）を行っています。

TAVI の適応は、開胸を伴う外科的大動脈弁置換術（SVAR）を行うことが困難なフレイルと呼ばれる全身の虚弱がある患者とされています。このような理由から手術前には合併症、解剖学的要因、フレイル、予測される機能的な結果、生存期間、患者の希望を考慮し、医師、看護師、検査技師、薬剤師、リハビリスタッフなどの関連職種が参加するハートチームによる術式の検討が重要です。

しかしながら、心不全を伴う重症 AS 患者に対して、術前に運動負荷を伴う検査はリスクがあり、本人から入院前の活動量を問診するだけでは、実際の活動量との乖離があることもあり、どの程度の活動性が保たれているかを推定することが難しいのが実際です。

本研究は、重症 AS の手術を行う前に手術の可否を確認するため対象患者全てに行なっている CT 検査の画像を利用し、骨格筋指標を測定し、その他の運動機能指標との関連性を見ることで、術前の CT 検査で運動機能や術後の転帰を評価できないかを検討するものになります。

研究の対象となる方

2018 年 4 月から 2023 年 3 月の期間に重症大動脈弁狭窄症に対して術前精査を行われた方

研究の目的・意義

CT 検査は通常心大血管手術前に行う検査であり、現在行っている術前の身体機能検査ができない患者について活動性の推定ができる可能性があり、患者への負担の

軽減が期待されます。また、他の手術の前や心不全患者においても、同様に術前の活動性の推定ができる可能性があります。

研究の方法

研究対象者の電子カルテから得られる情報（検査時の年齢、性別、身長、体重、既往歴、血圧、脈拍、症状、血液検査、12誘導心電図、心エコー図検査、胸部レントゲン写真、CT検査、認知機能検査、運動機能検査、治療内容、臨床転帰）を収集し、統計解析を行います。

研究期間

本研究は 2024 年 1 月 16 日から 2027 年 3 月までに終了することを予定しています。

研究組織

この研究は島根大学医学部附属病院循環器内科が行います。

参加研究機関

〔研究機関〕

島根大学医学部附属病院 循環器内科

〔研究責任者〕

田邊 淳也

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2024 年 3 月 31 日までをお願いします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

本研究では研究対象者の識別が不可能な状態でデータを管理・使用し、個人が特定されないよう留意します。この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：田邊 淳也

島根大学医学部附属病院 循環器内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話：0853-20-2249

FAX：0853-20-2201